

心理学生研究会の成果報告

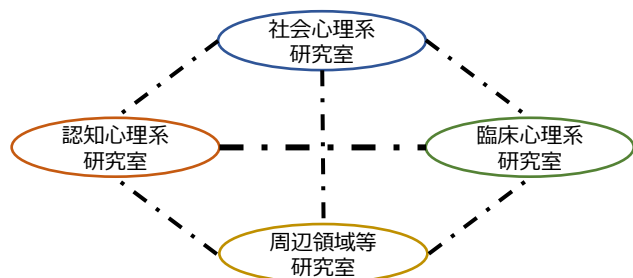
研究会代表者：鈴木悠介（人間科学研究科D1）

設立目的：心理系学生の交流

■ 問題

立命館大学の現行の体制では、心理系学生同士の交流が限られており、研究室ごとのつながりしか存在しなかった。

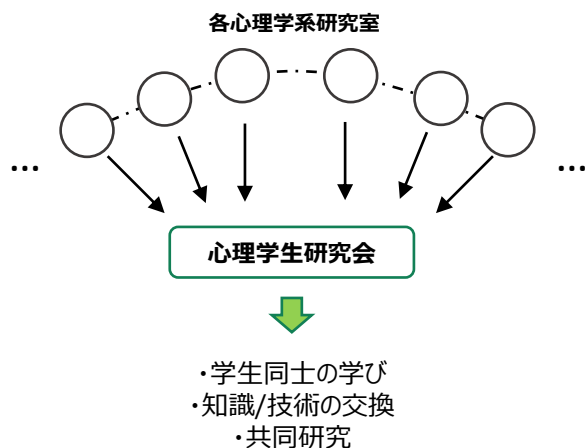
➡ 学生同士での学びや情報交換の不足
共同研究が生じる可能性が低い



■ 目的

複数キャンパスや研究科にわたって所属している心理学とその周辺領域を専攻する学生の交流の場を、承認された研究会を設立することで提供する。

本研究会での交流を元に、各自の研究能力の向上や、共同研究の発端とする。



→ 各自の研究能力の向上・研究の幅を広げる

研究会実施

月に1回程度の研究会を実施した。
(オンライン7回 + 対面1回)

各研究会では、各自の研究発表・論文紹介や研究的問題点の共有、共同研究案の提案、各自が抱えている悩み相談などを行った。

研究会成果

- ・13名の心理系学生が本研究会に参加した（OIC学生9名、BKC学生4名）
- ・多岐にわたった研究領域（下記図参照）
- ・知識/技術の交換（触覚デバイスの使用方法等）
- ・共同研究のスタート（音刺激によるアニメーション研究）
- ・研究力向上に伴う各自の研究成果（下記図参照）

メンバーの所属学会		
基礎心理系	日本心理学会・基礎心理学会・認知心理学会・社会心理学会・日本認知科学会・日本パーソナリティ心理学会	
応用心理系	法と心理学会	
周辺領域	視覚学会・日本計測自動制御学会	
国際学会	Psychonomic Society	
メンバーの研究成果例		
論文投稿	2本	Frontiers in Psychology (in submit)
シンポジウム等	2回	法と心理学会第23回大会ワークショップ
口頭発表	6回	JSAI 2022
ポスター発表	6回	ECVP 2022



まとめ

本研究会では、複数キャンパス・研究科・領域にわたって所属している心理学系学生を集め、交流の場を提供することができた。実際、合計8回の研究会を開催でき、研究議論や知識/技術交換を促して、各自の研究力向上を図れた。実際、上記のとおり各メンバーが、それぞれ研究成果をあげており、本研究会は間接的に、各自の力となれたと感じている。

<反省点と今後>

本研究会では当初、外部講師の招聘と講義を計画していたが、今年度ではスケジュールの問題から叶わなかった。また規模も小程度になってしまった。

今後も共同研究を進めるとともに、本研究会で得たつながりを深め、交流していきたい。